

敦賀市こどもの国(屋内プレイエリア)

リニューアル基本計画 概要版

令和6年3月

敦賀市

第1章 基本計画策定にあたって

1.基本計画策定の背景と目的

本計画は、「敦賀市こどもの国リニューアル基本構想」で定められた基本方針やコンセプトをもとに、屋内プレイエリアについて、リニューアルの内容・規模、概算事業費、建設スケジュールなどに関する基本計画を策定することを目的とする。

(1)リニューアルの基本方針

基本方針として下記の3つをポイントとした。

基本方針：あそびの中でこどもの心と身体を育む空間

- テーマ①：みんなで一緒にあそべる・・・「親子で一緒に」「インクルーシブ」
- テーマ②：どんな時でも満喫できる・・・「天気を気にせず立ち寄れる屋内外の遊具」
- テーマ③：敦賀の自然を体感できる・・・「海に近いロケーション」「生き物コーナー」

出典：「こどもの国リニューアル基本構想」(敦賀市、令和5年3月)

(2)屋内プレイエリア整備コンセプト

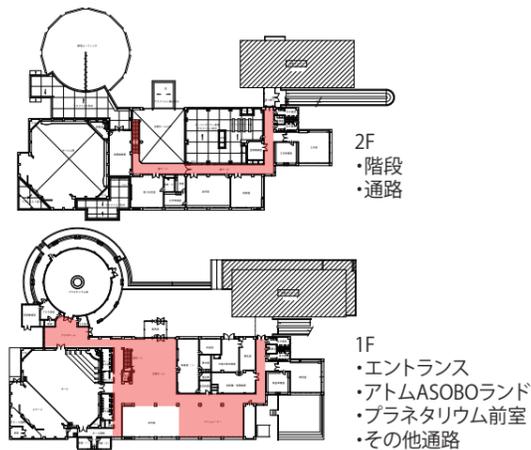
基本方針を踏まえ、整備コンセプトを次のように定めた。

「屋内プレイエリア」整備コンセプト  
敦賀を感じられるあそびとまなびの空間づくり

- [整備の考え方]
- 遊具や映像を使った様々なあそびを体験できるエリアとする。
  - 年齢に合わせて誰もが楽しめるエリアとする。
  - 海の生き物など自然を体感することができるエリアとする。

(3)リニューアル検討エリア

対象のエリアは1Fエントランス、アトムASOBOランドプラネタリウム前室、並びに館内の上履き化による、2Fエリアの廊下を検討エリアとしている。



第2章 現状の把握

1.施設機能の現状

- [屋内遊戯空間]
- 土足の空間と靴を脱いで遊ぶ空間が混在している。
  - 『アトムASOBOランド』は整備から期間が経っており、経年劣化が目立ち利用者にとって古く感じる空間になっている。
  - 敦賀らしい知育を含めたあそびと学び体験ができる空間が求められている。

- [建築設備]
- 照明のLED化が進んでいない箇所がある。
  - おもむつ交換台などの設備が使いづらく不便な箇所がある。
  - 児童センター1F遊戯室の床に経年劣化が目立ち補修が必要。
  - 玄関前のタイルに劣化による破損がみられる。



2.法令関係

- [建築基準法]
- 用途地域 都市計画区域内 工業地域 防火地域指定無し
  - 敷地面積 12,091.75㎡
  - 建物用途 児童福祉施設
  - 建物規模 鉄筋コンクリート造  
建築面積 2,227.6㎡ (児童文化センター:1,940.3㎡/児童センター:287.3㎡)  
延床面積 3,009.8㎡ (児童文化センター:2,596.6㎡/児童センター:413.2㎡)
  - 建ぺい率 19.39% < 60%
  - 容積率 23.81% < 200%
  - 内装制限 居室の天井及び壁は難燃材料以上とし、居室から地上に通じる廊下及び階段の天井及び壁は準不燃材料以上とする

- [消防法]
- 工事種別 改修
  - 耐火・準耐火 耐火建築物
  - 用途 1項(ロ) 公会堂、集会場
  - 設備  
・消火器・屋内消火栓設備・自動火災報知設備  
・非常警報設備・誘導灯設備・非常電源設備

第3章 課題の整理

1.課題調査の手法について

リニューアル基本計画に係る課題調査として下記3つの手法により実施した。

(1)関係者ワークショップ(計3回)

施設運営者、保育士、小学校教諭などを交え、計3回のワークショップを実施。各エリアに対する意見聴取や、プロポーザル時の提案、現状設備に対する課題抽出を行った。



関係者ワークショップの様子



利用者フィードバックの様子

(2)利用者フィードバック

館内に模型と投票パネルを設置し、アンケートブースを設けて、現在こどもの国を利用されている方のフィードバックをいただいた。

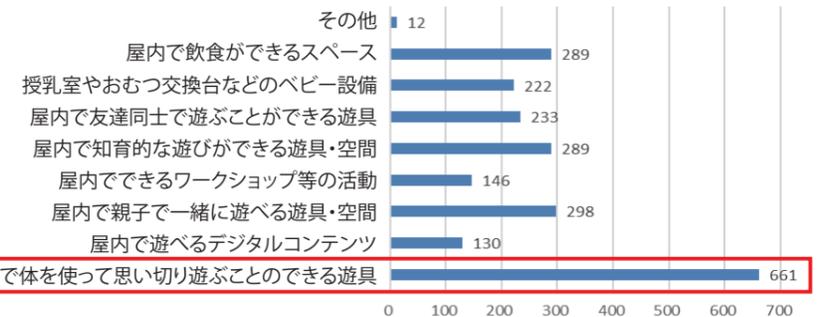
(3)WEBアンケート

福井県内、滋賀県湖北地方在住で中学生以下の子どもを持つ保護者を対象に、現在も利用している層だけでなく、利用したことがない層、もう利用していない層の意見も収集し、リニューアルに期待する内容を抽出した。

[調査期間]  
令和5年11月6日(月)～11月24日(金)  
[調査対象者]  
福井県、滋賀県(湖北地方に限る)在住、かつ中学生以下の子どもを持つ保護者  
[調査結果概要]  
以下に調査結果の一部を示す。

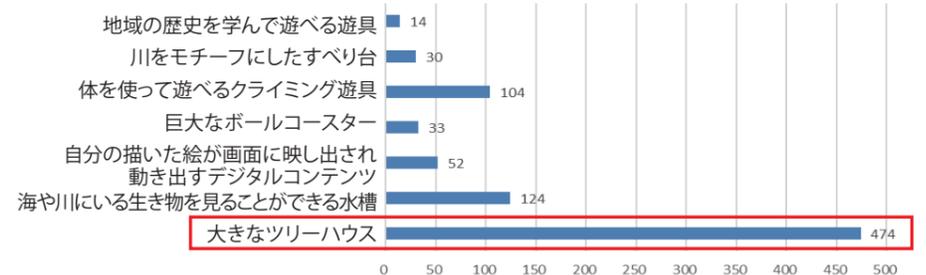
Q.リニューアルに際し、屋内にあった方が良くと思う機能や設備について

▶敦賀市周辺にある施設同様、体を使って遊ぶことができる屋内遊具の整備が強く求められている。



Q.期待する遊具について

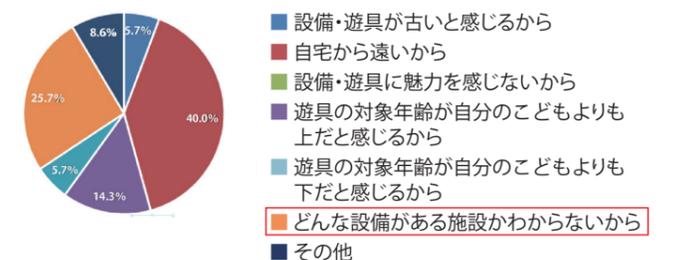
▶ツリーハウスやクライミング遊具などが強く求められているほか、本物の魚を見ることができると水槽やデジタルコンテンツが求められており、多様なニーズがある。



Q.利用しなくなった理由について



Q.行ったことが無い理由について



▶利用者を増やすためには小学校高学年など年齢層の高い子どもたちも満足する遊具が求められている。

▶敦賀市こどもの国でのイベントや設備をアピールする広報活動が必要。

第3章 課題の整理

(4) 課題の考察

3つの課題調査にて挙げた代表的な課題を下記に示す。

[年齢の住み分け]

- 異年齢の子どもたちが同エリアで遊ぶことの危険性を懸念する声が多くみられる反面、きょうだい連れの保護者からは同じ空間で遊べる場所も欲しいという声があがった。

[遊具の対象年齢]

- 以前まで利用していたがもう利用していない層は、小学校高学年以上の子を持つ親が多くみられた。

[遊具の安全性・継続性]

- 一番期待されていることは、屋内で体を思い切り動かせる何れも楽しめる遊具かつ安全に遊べることであった。

[靴の運用について]

- 館内で靴を脱ぐことには、肯定の意見が多くみられる。

[来館がない層の取り込み]

- 来館経験がない市内層は、乳児層にとって使いやすい遊具や設備が不足していることを理由にしていた。

2. 類似施設調査

上記調査に加えて、3つの観点から6つの施設にヒアリングを行い、本施設のリニューアルに当たって参考になる点をまとめた。



三重県総合博物館 こども体験展示室

① 屋内遊具のある施設

- 三重県総合博物館こども体験展示室
- 和光市総合児童センターわびあ

[屋内遊具の工夫点]

- 三重県総合博物館では展示の文章には全てルビが振られており、小学校低学年の子どもたちでも内容が分かるようになっていた。
- わびあでは立体遊具の中で遊んでいる子どもたちを見守りやすいように、遊具の一部を透明化するなど、安全面に配慮していた。



道の駅 硯上の里 おがつ

② 水槽の設置に参考になる施設

- 道の駅 大谷海岸
- 道の駅 硯上の里 おがつ

[他施設の水槽の管理運営方法について]

- 大谷海岸では人工海水を、硯上の里 おがつでは近くの海から海水を確保している。
- 魚種の入替えについては地元の漁師の善意に頼っているので不定期となり魚の供給が不安定。
- 水槽の日々の清掃や海水の入替えにおいては専門業者に委託していないのでスタッフの負担が大きい。

[本施設における課題]

- 海から取水する設備は課題が多く整備が難しいため、検討が必要。
- 日々の清掃や海水の入替え、魚種の入替えなど運営における課題が多く検討が必要。



山形市南部児童遊戯施設コパル

③ 年齢層の住み分けの参考となる施設

- 保内児童センターだんだん
- 山形市南部児童遊戯施設コパル

[年齢層の住み分けにおける工夫点]

- 小上がりスペースやチャイルドスケールを取り入れた設計で明確な仕切りを設けずに異年齢を共存させていた。
- インクルーシブの考え方のもと、年齢層の住み分けをあえて行っていないが、土日や混雑時などは保護者が安心して乳幼児と遊べるように、赤ちゃんの部屋を設けるなど、運営面で異年齢の交流を達成している。

第4章 屋内計画

1. 基本計画コンセプト

エントランス

つるがの自然を「みつける」

6mの吹き抜けを活かしながら、敦賀の身近な自然をモチーフにした屋内遊具を計画し、子どもたちがお気に入りの場所を見つけ、遊べる、子どもたちにとって居心地のよいシンボルエントランスを計画する。

つるがネイチャールーム(仮称)  
(旧アトムASOBOランド)

つるがの自然を「あそんでまなぶ」

敦賀の海、山、川をテーマに身体を動かしながら、自然の魅力に出会える立体遊具に加え、水槽を設置し、ここだけにしかない遊戯空間を計画する。

2. 屋内計画の展開方針

「第3章 課題の整理」をもとに屋内計画の展開方針を下記のように検討した。

① 動線

- 室内エリアと外靴エリアの区分を明確化する。
- 団体来館・混雑時の入館手順を設定する。

② 遊具

- 危険箇所を事前に十分に検討したうえで屋内で体を思い切り動かせる遊具の計画を行う。
- けがのリスクを考慮した安全性の高い素材を選定する。
- 保護者・スタッフの目が届きやすい空間設計とする。

③ 年齢の住み分け

- 同エリア内で異年齢の子どもたちが安全に遊べるゾーニング形成とする。

④ 水槽展示

- 現状組織体制で持続可能な規模・仕様を検討する。
- 敦賀湾もしくは敦賀市内の河川に生息する魚が飼育可能な機器の仕様を検討する。
- 水槽の魚をじっくり観察できる展示とする。

⑤ デジタルコンテンツ

- 常に変化がある更新性を考慮したデジタルコンテンツとする。
- 情報表示をデジタル化する。
- 衝突や故意の破損を防ぐ什器を検討する。

⑥ プラネタリウム前室

- プラネタリウム上映の期待感を高める前室の意匠をリニューアルする。

⑦ インクルーシブ

- 年齢の違いや、障がいの有無に関わらずそれぞれの遊び方を見つけることができる空間を検討する。

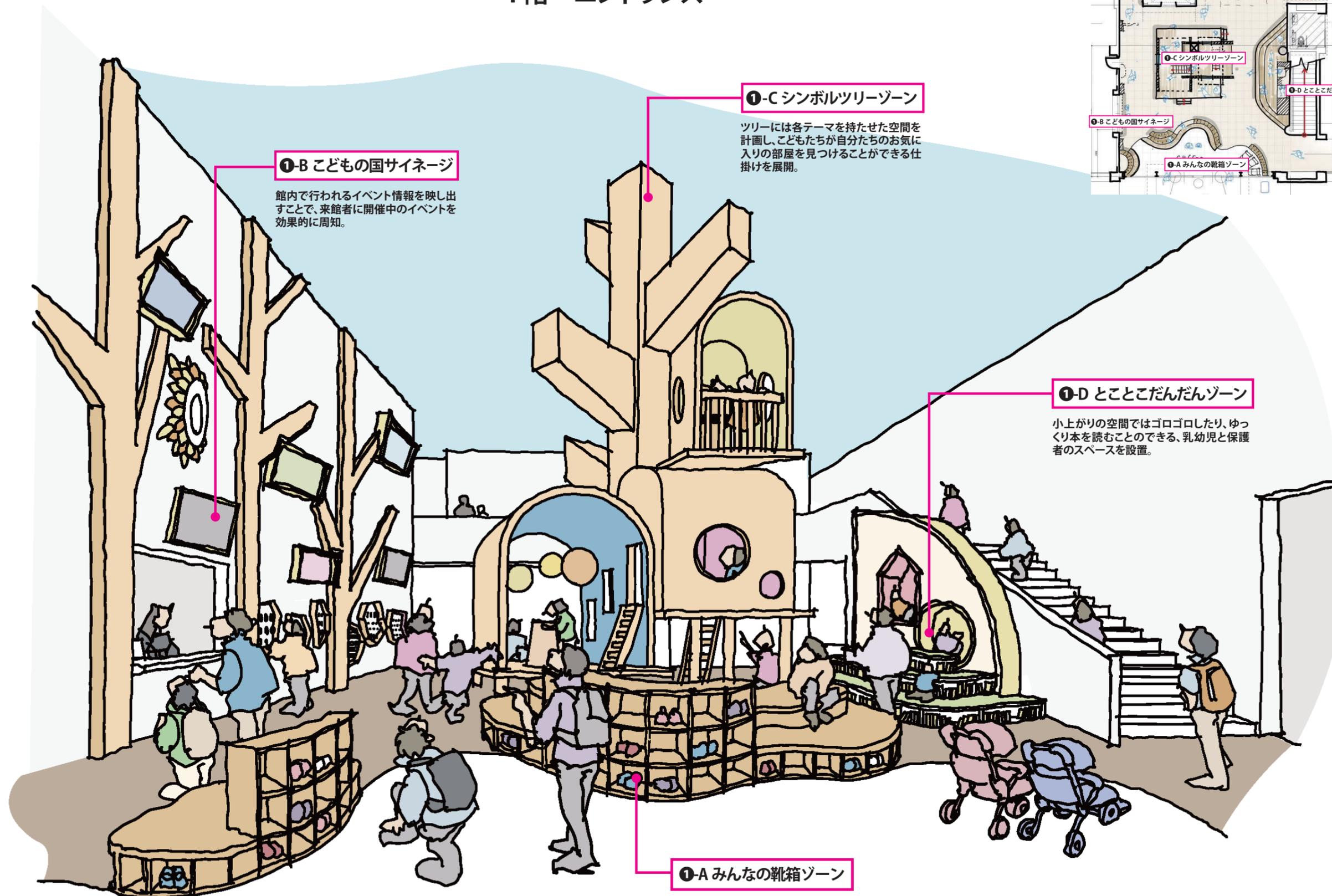
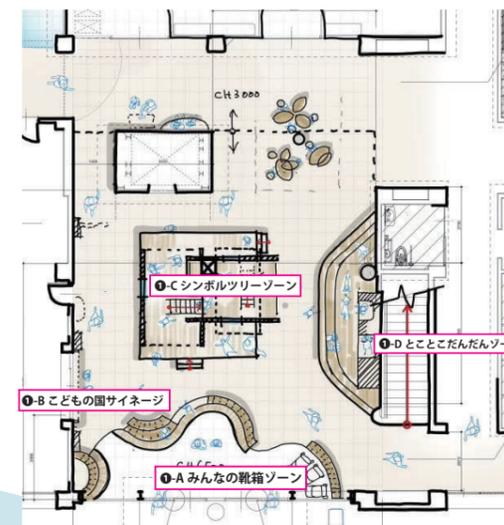
⑧ サイン計画

- 「〇〇は禁止」などの命令調の強い表現ではなく「〇〇に気を付けましょう」などこどもの自立を促す表現のサインを検討する。

## 吹き抜けを活かした、敦賀の身近な自然に出会うエントランス空間を設計します。

エントランス中央に象徴的なシンボルツリーを設置。  
こどもたちが昇ったり降りたりしながら敦賀の自然を見つけることができるツリーや  
みんなで使えるステージなど、楽しく遊べるエントランスを計画します。

### 1階 エントランス



#### ①-B こどもの国サインージュ

館内で行われるイベント情報を映し出すことで、来館者に開催中のイベントを効果的に周知。

#### ①-C シンボルツリーゾーン

ツリーには各テーマを持たせた空間を計画し、こどもたちが自分たちのお気に入りの部屋を見つけることができる仕掛けを展開。

#### ①-D とことこだんだんゾーン

小上がりの空間ではゴロゴロしたり、ゆっくり本を読むことのできる、乳幼児と保護者のスペースを設置。

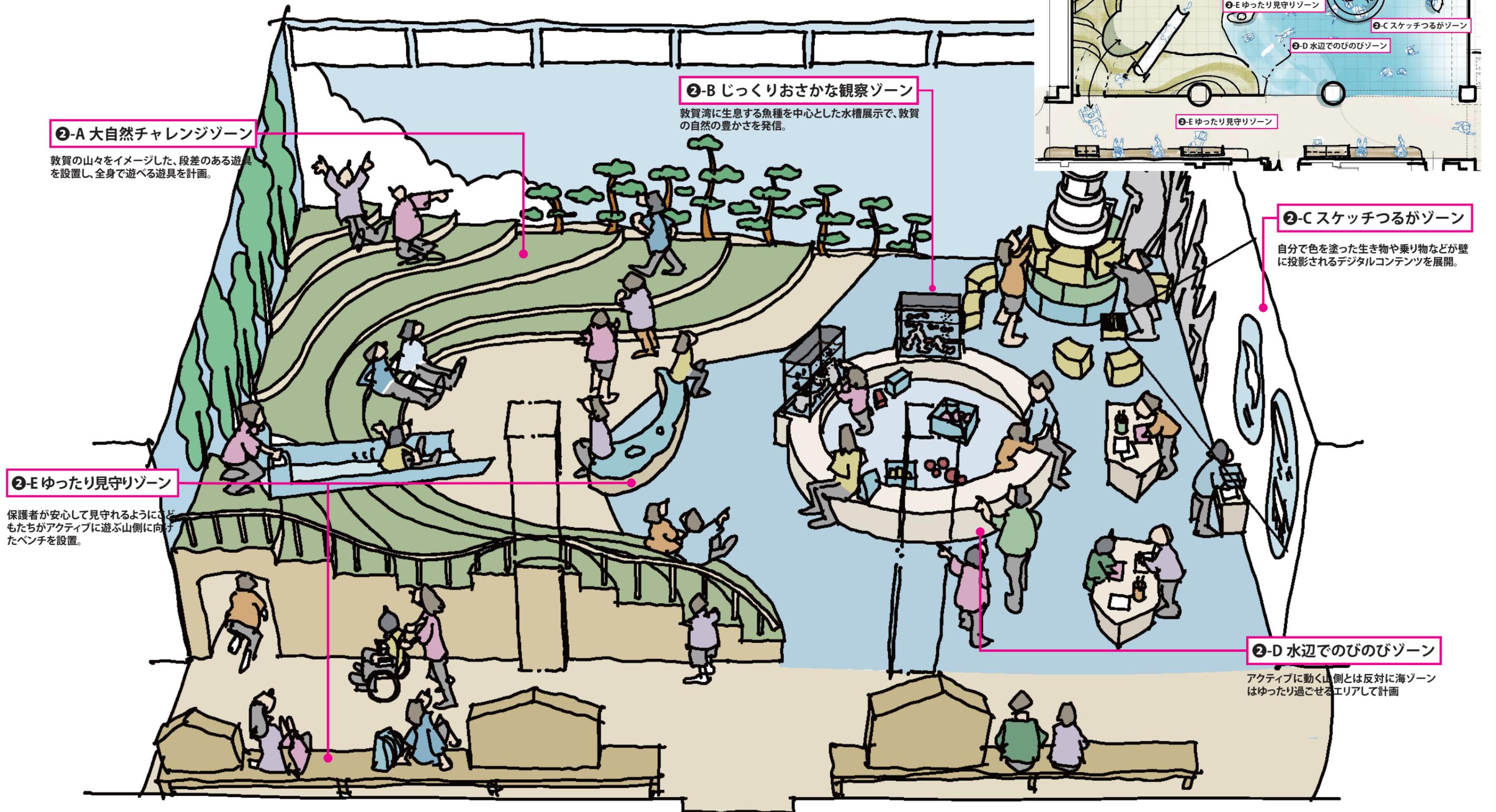
#### ①-A みんなの靴箱ゾーン

一度靴を脱いだら館内で靴の脱ぎ履きが不要になる館全体の大きな靴箱として機能。

## 敦賀の自然を遊んで体感できる立体遊具と水槽展示を行います。

敦賀の海、山、川をテーマにした遊具と展示で子どもたちに敦賀の自然の魅力を伝え、感性を刺激する空間を計画します。

### 1階 つるがネイチャールーム(仮称) (旧アトムASOBOランド)



#### ②-A 大自然チャレンジゾーン

敦賀の山々をイメージした、段差のある遊具を設置し、全身で遊べる遊具を計画。

#### ②-B じっくりおさかな観察ゾーン

敦賀湾に生息する魚種を中心とした水槽展示で、敦賀の自然の豊かさを発信。

#### ②-E ゆったり見守りゾーン

保護者が安心して見守れるように子どもたちがアクティブに遊ぶ山側に向けたベンチを設置。

#### ②-C スケッチつるがゾーン

自分で色を塗った生き物や乗り物などが壁に投影されるデジタルコンテンツを展開。

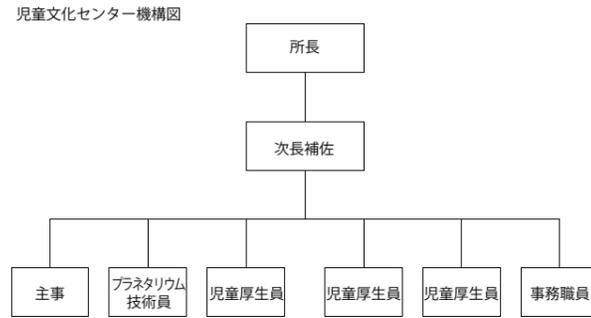
#### ②-D 水辺でのびのびゾーン

アクティブに動く山側とは反対に海ゾーンはゆったり過ごせるエリアとして計画

第5章 管理運営計画

1.現状の管理運営組織

現在の運営組織体制は以下の通りである。



3.その他

[年齢層の住み分け]

- 展示・遊具について、**明確な年齢制限は設けない**運用とする。
- ▶ 什器や色などによる緩やかなゾーニングを行う。
- 現状、時間帯によっては、児童層の来館が多いため、安全性の確保の観点から幼児室を利用する児童層に対しては乳幼児層への配慮を声かけする運用をしている。
- ▶ 今後、**時間帯で乳幼児専用の部屋を設定することで幅広い世代が過ごしやすい環境を提供することも検討**する。

[水槽展示生物の飼育]

水槽展示にあたり、展示として効果的で、かつ施設運営に負担にならず持続可能な運営手法を、次の観点から比較検討した。

1) 飼育水の種類の比較

	イニシャルコスト	ランニングコスト	飼育水の準備	飼育水の排水先	総合評価
① 淡水	○	○	◎	△	◎
② 人工海水	△	△	○	△	△
③ 天然海水	△	△	×	△	×

→①②は実現可能性が考えられる

2) 飼育する魚種

	入手しやすさ	飼育しやすさ	展示としての魅力	アンケート結果での期待度	総合評価
① 淡水域の観賞魚 <small>メダカ・金魚・シマドジョウ・ウグイなど</small>	◎	◎	△	○	◎
② 淡水域の天然魚 <small>アユ・ヤマメ・ホトケドジョウ・コイなど</small>	△	○	○	○	○
③ 海水域の観賞魚 <small>カクレマノミ、ナンヨウハギなど</small>	○	△	△	○	△
④ 海水域の天然魚 <small>サバ・ブリ・秋刀魚・サケなど</small>	△	△	◎	◎	○

→入手・飼育面の課題はあるが期待度が高いので実現に向け検討する。

2.リニューアル後の管理運営組織

[リニューアル後の運営組織]

- 運営組織体制は現体制を前提に検討する。
- ただし**水槽展示の水替え・機器メンテナンスは外部専門業者に業務委託することを前提に検討**する。

[開館日時]

- リニューアル後の**開館時間の変更は実施しない**が、近隣の他施設は月曜休館のため、利用者ニーズを考慮した休館日の検討は必要。
- 水槽展示や大型遊具のメンテナンス日として、閑散期の平日を別途休館日と設定することも検討する。

[利用料金]

- 入館料は引き続き無料**とすることを前提に検討する。

第6章 概算事業費及び維持管理費の算出

内容	金額 (円)	備考
展示設計施工概算	197,961,500-(税込)	①デザイン設計費 ②展示物制作経費 ③付帯工事関連経費

財源：子どもの遊び場整備事業補助金（県）  
上限額 1億円  
補助率 10/10

概要：天候に関わらず子どもたちが安心して遊ぶことができる遊び場を充実し、心身ともに健やかな子どもたちの育ちを支援するため、全天候型の子どもの遊び場整備に要する費用を助成する

内容	金額 (円)	備考
リニューアルに関連する維持管理費	4,000,000-(税込) ※1年間ごとにかかるランニングコストとして算出	①水槽維持管理費 ②水槽業務委託費 ③映像機器メンテナンス費 ④大型遊具メンテナンス費

3) 運営方式の比較

	ランニングコスト	運営にかかる業務負担	機器メンテナンス	生物飼育	生物補充	総合評価
① 館スタッフにて飼育・メンテナンス	◎	○	○	△	△	○
② 専門業者への業務委託	○	◎	○	△	○	◎
③ 専門知識を持った飼育スタッフを追加	△	○	○	○	△	△

→コストや業務負担などの面から②が優位と考えられる。

[今回の計画で目指す水槽展示]

- 人工海水を使用した**海水水槽**を前提に検討する。
- 展示生物は**敦賀に関連する魚種**を優先して検討する。
- 水替え・機器メンテナンス・生物補充は**専門業者への業務委託**を前提に検討する。

